



肥後みてさる記

倉林喜一郎

私は一年半前に下関から熊本に転勤してきました。まんざら九州に縁がなかった訳ではなく、長崎、大分と八年間住んでいたことがあります。だから熊本も全然知らなかった土地ではありませんでしたが、いざ肥後の中に入ってみると驚くことばかりでした。

豪気朴訥、質実剛健は肥後の看板ですが、花畑町の旧県庁はまさにそのとおりで、戦後二十年を過ぎてもと全く感じしたものでした。又、肥後人は一見してそれとされる風貌でいったん言い出したら後にひかない一徹ものが多く、これは大変な所だと思ったものでした。

それがどうでしょう、一年半たってみると、肥後もつすが少し分りかけてきて愛すべき土地であると思うようになってきました。

先月、下関の知人から「かまぼこ」を駅止めで送って来ました。駅止めであったため、荷札に住所を書いてありませんでした。私は遅く仕事を終ったの帰りにけに受取りに行きました。

小荷物係のおじさんはゴツイ感じの人

で、声をかけるのもとまどう感じでした。「かまぼこ」の入っている箱は生フグを入れるものを使っていました。

送ってくれた知人の家は下関フグの間屋だったのですから——係の人は生フグであれば腐ってしまわないかと受取りのおそくなっている荷物を見て心配し、下関の駅まで宛先の住所を問い合わせてくれたのでした。荷物の着いていることを一刻も早く知らせるために。

でも、その係の人はそれを自慢するでもなく、訥々(とつとつ)としてむしろその表現は下手な方でした。

私は肥後人の一端をうかがい知った様な気がしました。又、私達転勤族の一番のなやみは子供の教育です。教科書のちがいが、教育方法のちがいをうめるために放課後子供と一緒に残ってくれる先生もいるのです。

こんなに心暖まる土地でも、おかげ八目、気になることが沢山あるのです。

熊本の飲み屋へ行けば殆んど熊本県産の酒しか飲ませてくれません。郷土愛が痛いほど分ります。灘はもちろん広島にも秋田にもうまい酒があるので。郷土愛によりかかって酒屋さんは精進を忘れてはいけませんね。

一方、反骨精神も意識している、いなかかわらず所詮権威をめぐってのこ

サルの話

竹田 斉

サルの間は霊長類と云って動物の中で一番賢い高等な動物です。世界中で約二〇〇種類ありますが、之を分類しますと原猿類と真猿類に分れます。原猿類はメガネザル、ワオキツネサルなどで一番下等のサル類です。真猿類は三つに大別されます。一、広鼻類はオマキサル、クモサル等で知能が低く余り物真似が出来ません。二、狭鼻類はヒヒ、ニホンサル等で知能もよく物真似をします。三、類人猿類はチンパンジー、オランウータン、ゴリラ等で大脳がよく発達し知能も優れています。

ここでは一応日本ザルについてのべてみることにしましょう。まず分布ですが、鹿児島県屋久島から青森県下北半島まで九州四国本州に限定され津軽海峡を境にして北海道にはいません。

元来サルは熱帯性の動物であります。青森県の北端で冬期雪の深い地方で生息していますので、世界の最北限に分布しているものとして有名であります。特徴は顔と尻、性皮が赤く尾が短く、体毛長五〜七センチ、体重一〇〜一五内外です。生息数については

- 九州地方 約五、〇〇〇〜
- 六、〇〇〇頭位(推定)
- 鹿児島県屋久島 三、〇〇〇頭

大分県(高崎山八〇〇〜一、〇〇〇)

- 一、五〇〇頭
- 福岡県 四〇〇頭
- 熊本県 四〇〇頭
- 宮崎県(幸島八〇頭) 二五〇頭
- 四国地方 二、五〇〇頭
- 近畿地方 六、〇〇〇頭
- 中国地方 四、〇〇〇頭
- 中部関東地方 九、〇〇〇頭
- 東北地方 二、〇〇〇頭
- 日本全土(北海道を除く) 三〇、〇〇〇

〜三五、〇〇〇頭位です。

次にサルの生活状態ですが、日本ザルは山地に群生し二〇〜三〇頭の群となり、森林地帯をボスがリーダーとなって行動してその生活域には時と言って宿泊する洞窟岩影大木の空洞等があり、早朝より餌を求めて遊牧し歩き夕刻には帰って来ます。その時は人が行けない険しい地形にあります。食物は雑食性で木の根、木の芽、木の実、昆虫を食べます。三〜四才で親となり十一月〜翌年一月頃まで発情し妊娠期間が六カ月で一仔を分娩(双仔は稀)します。他の動物に比し母性愛が非常に強く又ボスザルも仔ザルを保護します。親ザルは仔ザルを背負ったり、抱いたりして山野を飛び歩き、約一年もしますと仔ザルは母ザルより離れて独り歩きするようになり群と共に生活します。

サルの社会についてはボスザルがリーダーとなって群生活していますが、その

とのように思われます。二十年、五十年先のことを見通してのことでしょうか、質実剛健の県庁も今や西日本随一の威容をはこっています。

NHKは「三姉妹」に代わって「竜馬がゆく」を放送しています。その竜馬はスケールのでっかい人間でした。肥後にもその竜馬の師、横井小楠というでっかい人がいました。土佐ヶいごっそぐと肥後もつこすぐは一脈通じているのかも知れません。

でも横井小楠は肥後で認められるよりも他藩でより認められました。こんなことを思ってみますと、より広い所、高い所から肥後をもう一度見直して見たらどんなものでしょうか。(NHK熊本中央放送局・放送副部長)

春の風

—新編歳時記より—

- 春風や堤長うて家遠し 蕪村
- 春風や闘志いだきて丘に立つ 虚子
- 働けばきりなし春の風仰ぎ 立子
- 春風となる焼あとの子どもたち 宋淵
- 泣いてゆく向ふに母や春の風 汀女

には配列(序列)があります。ボスが群の中央に陣取りその隣にボス見習(一〜二頭位)その周囲に親子ザル、メスザル、その周囲にボスにならないオスザル、その外側に若いオスザルという具合に四層からなっています。又順位制がはっきりしてしまして順位が一つ違えば餌を採る時は勿論のこと、何事につけても優位者に対するマナーを守るものがはっきりしています。これを若いサル達が守らなかつたら大変です。必ず他のサルから制裁を加えられます。ボスザルは腕力も強く群を統轄し、その生活域での地理的、気象的、餌の有無、並びに外敵の有無等にも経験者です。サルの寿命は二五才位までです。

最近の野生ザルの生活環境について考えられます事は、保護動物に指定されている関係で自然増加していますが、山林材採や農業改善事業で耕地の開発によりサルの生活環境(生活域)が縮小されつつあります。それで生活域での食物が欠乏してきますので、民家近くの農耕地へ出没するようになったものと思えます。

それでサル自体の保護は勿論ですが、又生息域での絶対数(農作物の被害が出ない程度)は確保し、繁殖した増加分はある程度その地域より淘汰し、それを他の森林地区に移動疎開させる事と生息域(森林地帯)の保護が重要ではないかと痛感します。(熊本市動物園長)

